



掛川工高、初戦敗退！！

一回戦13試合に熱戦

第27回全国高等学校男子選抜ソフトボール大会

第27回全国高等学校男子選抜ソフトボール大会の初戦が開幕。早朝までの降雨により試合開始が4時間遅れの13:00時プレーボールとなったが、一回戦13試合が戦われ熱戦が展開された。県ソフトボール場では試合に先立ち始球式が行われ、本年度の富士宮市長杯大会の優勝投手の寺田悠作君(大富士小学校)が大役を務め、大きな拍手を受けた。

開催地枠で出場した掛川工業高校は第二試合に登場。徳島県代表の徳島東工業高校と対戦。持ち味の守備がほころび、また攻撃面でも1安打2四球11三振を奪われ、0対7の完封負けを喫した。大会二日目の3月21日(土)は二回戦16試合が行われ、地元飛龍高校はD球場第一試合(9:00開始)で千葉敬愛高校と対戦する、

【一回戦第二試合】

徳島東工業高 2100310 7 (バ)森田一長谷部(徳)、高須一鈴木(掛)
掛川工業高 0000000 0 【二塁打】加藤、長谷部、中田(徳)

徳島は初回、二塁打を含む4本のヒットと相手守備陣の乱れに乗じて2点を先制。3-0とリードを上げた徳島は五回表、一死無走者から長短4連打で中押し3点を追加し、試合を決めた。掛川は徳島の左腕・森田の速球に手が出ず、1安打2四球に抑えられ完敗。



初戦に破れ応援席にお礼の挨拶をする掛工高ナイン



七回を投げ抜いた高洲投手

掛川工業高・久能 暢監督の談話

「(試合を通じて)全国レベルに無いことを痛感した。相手投手に速球と変化球とで丹念に攻められた。左腕投手が初体験ということも影響した。県内の全国レベルのチーム(飛龍)と練習試合を通じて投手を中心に守りを鍛え、夏に備えたい。」

首藤 魁主将の談話

「左投手の速い球に慣れていなかった。打てなかった。試合を通して、相手選手を含め大きな声を出していたのを力に換え、チームが一丸になったのが大きな収穫だった。左投手対策を立て、大事な時に確実に走者を送ったり、還すことがキチンと出来るようにしたい。」



始球式を以て投球する寺田悠作投手

始球式を終えた寺田悠作投手の談話

「とても緊張した。いい球を投げようと心掛けた。高校に行ったらこの球場で選手として投げたい。」